

# ピセナイ山登山

2015.7.8 晴れ 高田さんと

茨城県の高田さんとは10年ほど前に雪倉岳避難小屋で同宿となった時に知り合いました。その時私は人工内耳手術前の聴力が最悪の時でした。北海道通の山慣れた人との印象で、北海道の情報を手紙で教えてくれと頼んで別れました。彼から親切な文章が届きました。北海道の情報が沢山記されていました。以降文通が続きました。彼は毎年2~3回北海道へ行って、登山・スノーシューを続けていました。熊野古道も全区間踏破するなど活動的な方です。4

年ほど前に長野へ来た時に浅間温泉に泊まって懇親したりしました。一緒に登山しようと何回か計画はあったのですが、天候等もあり彼とは今回は初めての山行となりました。昨年彼と北海道で会い、温泉に入ったり、一緒にニセコで泊まったりした時に彼が「北海道百名山」完登に残り1座と分りました。今年一緒に登る約束でしたが、彼と私の日程が合わず、あきらめていましたが7/7~9の間に札幌・苫小牧周辺で会う約束はしました。その後恵庭岳に登ろうとの話にもなりました。私が北海道入り後に彼からメールが入り、8日頃にピセナイ山に登らないかのお誘いがありました。私は彼は6/20頃から奥さんと（珍しく）北海道入りしていて、予定としてはピセナイ登山は6月下旬中と聞いていたので、驚きとうれしさですぐOKしました。彼の偉業（最近山梨・信州・群馬等々各県毎の百名山ブームだが、北海道百名山が一番大変である～登山道が無い・ヤブ山・沢登・ヒグマ・山小屋が少ない等で）達成に同行登山できるのですから。ただ一つ困った事は、お祝いの記念の横断幕を作ってなかった事です。カムエクから下山して登山は8日に決まり、彼は7日はサラブレッド銀座PAで車中泊、私は静内の宿に前泊する事になる。8日

は私の宿がちょうど静内ダムへの71~111号線の入り口の角にあるので5:00に宿前で合流する事に決定する。

7/8 (水) 晴れ 静内 5:00~5:45 ピセナイ林道ゲート P 6:10~7:15 登山口  
7:20~8:00 五合目 8:10~8:45 山頂 (1028M) 9:30~10:30 登山口~11:30  
ゲート P~日高町とねっこの湯で入浴 後解散~私は小樽へ。彼は奥さんの待つ苦小牧へ。

途中にゲートらしき物がいくつかあったが開いていたし、後ろの車もついてくるのでそのまま進行するが、そろそろと思う箇所にゲートがあり開いてはいるが駐車場に車が停まっているので一応停車する。後ろの車の人が降りてきたので状況を聞くと彼は工事関係者で先に入った工事関係者が途中のゲートは開けたままにしてあったが後から来る者が鎖錠するとの事、この先は通行止めとの事。良い人で特別だと言って内緒で下のゲートの鍵の番号を教えてくれた。これで帰路はOKだ。助かった。林道歩きの距離も少なくすみ。このピセナイ林道は毎年土砂崩れで車が通れる区間が月毎に変化する事はネットで調べて知ってはいた。

ピセナイ林道



クリンソウが咲いてました



登山届を記入する高田さん



フタリシズカ



車は広くなった駐車場に置いて歩き出す。工事中だがまだ車が通れる道が続く。途中の堰堤下の淵を覗いたら何と 35~30CM位のイワナが8匹ほどゆうゆうと泳いでいるのが目撃できた。車には釣り道具は積んであるので残念無念だ。

大きなイワナが群泳



キタキツネの親子が



登山口の記帳は 6/3 以降は記入無、マイナーな山なのだ。

登山道入口



8合目からは笹かぶり



地元の山岳会が手入れをしてくれているので、八合目までは笹は刈ってあったが、そこから山頂までは北海道の山らしい「笹かぶり」が続く。虫除けスプレーをくまなく撒いたが私の天敵の「マダニ」が10匹以上は常に衣類についている状態が続く。高田さんは足が速いが私は自分のペースで歩く。

同じ年だと言うのに脚力の違いだ。山頂に到着し記念撮影と展望を楽しむ。今日はN氏が二百名山難関の山「ペテガリ岳」に登頂の日だ、足の速い彼だからペテガリ

山荘を早立ちしてそろそろ山頂に着くであろうと想像する。前夜に慌てて紙とマジックを購入して作ったご粗末なお祝いの横断幕で高田さんにはすまない思いだが、記念にはなったと思う。数年前から日帰り登山では缶ビールを持参しない小生だが今日は特別に持参した缶ビールでお祝いの乾杯をする。冷えてはないが気分的に美味しかった。ほとんど全て単独行で北海道百名山を踏破した彼の努力・体力・精神力・登山能力には本当に敬服する。それを理解し支えた奥さんにも。彼もそんな妻への長年の感謝の意を込めて今回は奥さんとの北海道となったのだと推測する。やっとかなった彼との山行が記念すべき登頂でもあり嬉しい気持ちで下山した。

静内の牧場



日高町門別のとねっこの湯



帰路北海道通の彼のお薦めの温泉に入り、彼は明日「恵庭岳」に登頂するがご一緒しないか？とお誘いを受けたが、明日は新千歳空港に午後Fさん達の迎えに行かなくてはならないので残念ではあるがお断りして解散する。

赤沼健治